

# 小学校第5学年実践事例

## 授業テーマ

運輸やJAの役割、PR活動についてジグソー法を取り入れ効果的に話し合わせることを通して、多くの人たちが伊達の桃を消費者に届けるために工夫や努力をしていることを理解させる授業

### 1 単元名 「私たちの生活と食料生産」ー福島盆地の果物づくり

### 2 単元の目標

- 我が国の果樹生産の様子に関心をもち、福島盆地の桃づくりを事例として意欲的に調べるとともに、我が国の果樹生産の特色を具体的に考えようとしている。  
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- 我が国の果樹生産の様子について、学習問題や予想、学習計画を考え表現するとともに、果樹生産に携わる人々の工夫や努力、我が国の果樹生産の特色について考え、適切に表現できる。  
(社会的な思考・判断・表現)
- 福島盆地の桃づくりを事例として、我が国の果樹生産の様子について、統計その他の資料を活用するなどして必要な情報を集めて読み取り、まとめている。  
(観察・資料活用の技能)
- 福島盆地での桃づくりに携わる人々が様々な工夫や努力をして生産を高めていることや、我が国の果樹生産の特色について理解することができる。  
(社会的事象についての知識・理解)

### 3 単元設定の理由

6月のレディネスアンケート(5年生7名)から、

- ① 福島盆地の場所や地理的特色が分かるか?
- ② 福島盆地(伊達市)で桃作りが行われていることを知っているか?
- ③ 日本の中で、福島盆地の桃生産量の割合はどれくらいだろうか?
- ④ グラフや資料から必要な情報を読み取れるか?
- ⑤ 福島盆地での桃づくりに調べてみたいことは何か?

①は、場所が分かっていた児童が7名、地理的特色について記述できた児童が4名であった。地理的特色については、平らな土地が広がっている、夏暑くなるなどの回答であった。地理的特色までの理解はあまりないという実態である。②は、全員が知っていた。これまでの地域学習で桃を扱ったことや、保護者が果樹園を営んでいる児童もいるからであろう。③を答えられた児童は0名である。伊達市で桃作りを行っていることは理解しているが、日本から見てどうなのか比較するという視点はまだ育っていない。④は、3人が読み取れると答えた。これまでの学習を見ると、自分の知りたい情報を取捨選択したり、資料同士の比較・関連付けをしたりすることができずに、自分の意見の根拠として資料やグラフを正しく活用できない場合が多々ある。⑤は、桃ができるまでの様子、作っている人の気持ち、使う道具、風評被害についてなどが多々挙げられた。この調べてみたいという意欲は本単元を支える重要なものである。以上の実態把握の結果を単元構成に大いに活用する。

本教材は、「水産業のさかんな静岡県」の代替教材である。学習指導要領においては、食料生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働きについて、国民の食生活とかかわりの深い野菜、果物、畜産物、水産物などの中から一つを選択して取り上げるとなっている。今回は伊達地方の名産である果物の桃を取り上げる。本教材でも学習指導要領(2)アイウの指導は可能であり、また地域教材化することにより①意欲の喚起②見学学習の実施③社会参画へのつながり④切実感のある思考・判断⑤地域そして我が国への理解と愛情の深まりなどが得られるメリットがあると考えられる。

本単元では、学習指導要領(2)のウ「食料生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働き」に重きをおいて指導していく。そのため学習計画を児童とともに

立てる中で、**単元を貫く学習問題として「伊達の桃に関わる方々の工夫や努力を学び、自分たちにできることは何か考えよう。」を設定する。**問題解決学習を積み上げながら、単元を貫く学習問題を解決し、下記にある中心概念の認識を深めさせる。また、学習問題の解決そして概念の認識の先には、**自ら社会参画、復興参画**する資質へとつなげていきたい。そのためにも単元の最後には、単元の学習を生かして**伊達の桃の宣伝ポスター作り**を行う。

今回の学習では保護者でもある小手地域の桃果樹園の方や地域おこし支援員、JAの協力を仰ぎながら進めていく。受粉、摘果、袋がけ、収穫、出荷、輸送、販売までを体験させてもらい、果樹生産に携わる人々の工夫や努力について理解を深める。風評被害と戦いながら地域復興へ向けて取り組んでいる方でもあり、風評被害の実情についてや復興を目指し工夫・努力している生産者の思いを大いに学ばせて頂きたい。

本時は、桃が消費者に届くまでを学習する2時目である。1時目では、運輸・JAの役割・PR活動について、JAの方からの手紙や各種資料によって、一人調べを行う。2時目の本時では、ジグソー法を通して、3つのテーマについて協調学習の機能を生かしながら各自が表現を吟味し教えあい、そこから桃が消費地に届くまでには多くの人々が工夫や努力をして携わっていることまで理解させたい。

**【地域素材の教材化を図る単元構成図】**

＜第5学年＞ 「福島盆地の果物づくり」教材化にあたっての単元構成図

学習指導要領の内容

第5学年 (2) ウ 食料生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などはたらき

中心概念

福島盆地の果物(桃)は、生産者の努力や工夫に支えられ、全国でも有数の生産額となっていた。原発事故後の出荷制限その後の風評被害にあい生産額が激減したが、地域の誇りである桃栽培の復興に向けて、生産者をはじめ携わる方々は努力を続けている。

基本的事項

養蚕業が衰退した土地の新たな産業として、気温降水量また水はけのよい土地を生かし果樹栽培を始めた。

剪定、受粉、摘果、袋がけ、収穫、選別、出荷と1年間を通して手作業による愛情込めた桃作りが行われている。

性フェロモン剤・反射シートの導入や光センサーによる糖度測定など安全でおいしい桃作りをし、全国有数の生産地である。

JAを通して、全国そして世界へ福島盆地の桃は出荷されている。

原発事故後出荷制限になったり風評被害で生産額が減少したりしたが生産者は復興へ向けて努力を続けている。

構成要素

福島盆地の地理的特徴

1年間を通しての手作業による桃作り

農薬使用削減や高品質保持のための工夫や努力

全国そして世界へつながる流通網

除染や線量測定への取り組み、安全安心のPR活動

素材資料

地図帳  
地形図

果樹園での体験副読本「わたしたちの伊達市」

果樹園での見学教科書  
地図帳

JAの方の手紙副読本「わたしたちの伊達市」  
社会科資料集

果樹園の方の話  
伊達市放射線教育副読本  
伊達市HP  
伊達マルシェHP  
機関誌「耕」

#### 4 指導計画

次	時	学習活動	評価規準（方法）
一次	1 2 3	果樹園の方に1年間の果樹栽培の流れや風評被害の現状を聞き、それをもとに学習計画を立てる。	果樹園の方の話をもとに、学習計画や学習問題を考えることができる。 (ノート)
二次	4	我が国の果樹生産の特色や福島盆地で果樹栽培が盛んな理由、主な消費地を調べる。	我が国の果樹生産の特色や福島盆地で果樹栽培が盛んな理由、主な消費地を理解することができる。 (ノート)
	5 ～ 8	受粉、摘果、袋がけを体験し、果樹栽培に携わる人々の工夫や努力について理解する。	受粉や摘果、袋がけなどの体験活動から、果樹栽培に携わる人々の工夫や努力について理解することができる。 (ノート)
	9 10 本時	運輸やJAの役割、PR活動について、JAの方に質問したり、各種資料で調べたりすることを通して、桃が消費者のもとに届くまでに携わる人々の工夫や努力を理解する。	桃が消費者のもとに届くまでの人々の工夫や努力を理解することができる。 (ノート)
	11 12	収穫・出荷を体験し、果樹栽培に携わる人々の工夫や努力について理解する。	収穫・出荷などの体験活動から、果樹栽培に携わる人々の工夫や努力について理解することができる。 (ノート)
三次	13 14 15	果樹栽培に携わる人々の工夫や努力を想起しながら、 <b>伊達の桃を宣伝するポスターを作成する。作成後、直売所に貼付する。</b>	これまでの学習を想起しながら、復興へ参画するという思いを込めて、伊達の桃を宣伝するポスターを作ることができる。 (ポスター)

伊達の桃に関わる方々の工夫や努力を学び、自分たちに行っていることは何か考えよう



#### 5 本時のねらい

運輸やJAの役割、PR活動などについて調べることを通して、多くの人たちが福島盆地の桃に携わり、おいしくて安全安心な桃を消費者に届けようと工夫や努力していることを理解する。

## 6 学習過程

段階	学習活動・内容	時間	○指導上の留意点 ◆評価(方法)
つかむ	1 めあてを確認する。 伊達の桃は、関わる人たちのどんな思いがこめられて消費者のもとへ届けられるのか。	3	○ 掲示物を用いこれまでの学習を想起させることで、本時の学習のめあてをとらえやすくする。
調べる	2 3つのテーマ(運輸, JAの役割, PR活動)についてエキスパート活動をする。	17	○ 画用紙に考えをまとめ合うことで、考えを広げたり, 分かりやすく表現したりできるようにする。
意味を考える	3 生活班にもどり, ジグソー活動をする。	10	○ 友達の考えを聞いて気づいたことをノートに書き足すことで, 考えを広げられるようにする。
	4 3つのテーマについて, そこに携わる人々の思いを考える。 (運輸) 「生産者の思いがこもった桃を新鮮なうちに届けたい。」 (JAの役割) 「生産者の力を合わせて伊達の桃を盛り上げたい。」 (PR活動) 「安全安心でおいしい伊達の桃を多くの人に知ってほしい。」	10	○ まとめにつながるものとなっていくので, 考える時間を確実に確保する。 ○ 座席を生活班のままにしておくことで, なかなか考えが持てない場合に班で相談できるようにする。  ○ 3つのテーマを教師が板書でつなぐことで, 生産者から消費者の元へ届くまでにたくさんの人たちが携わり, 工夫や努力をしていることに気づかせていく。
まとめる	5 3つの立場の人々の思いをつなぎ合わせて, めあてに対する自分の考えをまとめる。 伊達の桃は～ (板書計画に記載)	5	◆ 桃が消費者のもとに届くまでの人々の工夫や努力を理解することができる。 (ノート)

## 7 板書計画

